

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

複数の船社から3月のGRI(海上運賃一斉値上げ)が通知されていましたが、主要な積出港のGRIについては概ね回避されています。しかしながら、海上運賃は依然として低水準で推移していることから、各船社は諸チャージの値上げや新たなチャージを設けるなど、引き続き様々な形でコストの転嫁を図っています。

4月末からの大型連休期間中における各コンテナヤードの稼働日についての詳細はまだわかっていません。前月号でも記載した通り、連休期間中に入船予定の本船はコンテナヤードの滞貨状況によっては荷役ができず抜港する可能性も懸念されます。また、連休明けの植物検疫についても貨物の滞留により、通常よりも検査および通関までに時間が掛かることが考えられます。

ビートパルプ

【米国】

1月後半から2月にかけて米中西部を襲った大寒波は数十年来の規模と言われ、死者も相当数にのぼり非常事態宣言も発令されるなど、日本でも大きく報道されました。

この寒波は中西部を拠点とするビートパルプの生産工場の稼働にも影響を及ぼしました。原料の保管環境という観点では、昨年のような暖冬に比べると寒波の到来は好ましいと言えますが、異常とも言える今回の寒波は工場の稼働に悪影響を及ぼしました。ビートパルプの生産量が大幅に下方修正された影響で工場の稼働日数は例年に比べ短縮される見込みでしたが、大寒波により生産も鈍化しており稼働日数を増加させることになりそうです。

新穀の作付は例年通りであればアイダホ州など早い地域で3月末、日本向け主力のミネソタ州およびノースダコタ州では4月よりスタート、順調にいけば5月中旬には終了の見込みです。大手サプライヤー傘下の各地域における新穀の作付面積は、昨年比から微増を見込んでおり、今後の天候によっては、追加の作付も行われる可能性があります。

アルファルファ

ワシントン州

ワシントン州産アルファルファの積み出し港があるシアトルでは、2月の降雪量は20.2インチ（約53cm）と過去50年間で最も多くなりました。アルファルファの主産地であるエレンズバーグ、コロンビアベースンとシアトル・タコマ港を繋ぐ州間高速道路90号線（I-90）は雪の影響で度々通行止めとなり、陸路による輸送に遅れをもたらしています。産地においても、降雪の影響で保管中のアルファルファへのダメージが懸念されており、雪害により契約済の在庫数量が減少するケースが増えそうです。

米国農務省の統計によるとワシントン州における18年産のアルファルファの生産量は17年産に比べ20%程度減少しています。このため、多くのサプライヤーで保有する18年産の在庫は限定的で、国内外からの安定的な需要に応えるため、新穀の収穫開始前後から積極的な買い付けが行われると予想されており、産地相場への影響が懸念されます。

米中貿易戦争に伴う高額な関税の発動を受け、中国向けの輸出量は例年に比べて低調でしたが、多くのサプライヤーから、中国国内の在庫が減ってきており引き合いが出始めているとの情報もあり、こちらも新穀の相場への影響が予想されます。

オレゴン州

18年産の産地在庫は若干の供給余力はあるものの、多くは輸出向けとしては価格が合わず国内向けに捌けているようです。19年産の作付面積に大きな変動はない見込みです。

18年産のオレゴン州のアルファルファ生産量は他州と同様に減少傾向にあり、17年産比で10%以上の減少となっています。19年産以降の産地相場次第ではありますが、今後作付面積が大きく回復する要因は限られています。

カリフォルニア州

2月15日付のインペリアルバレーの作付面積は前年同月比104%の141,350エーカーとなっています。2月は平均気温を下回る日が続き、一部の圃場では冷害も報告されており、新穀の収穫進捗は鈍化しているようです。

18年産在庫の出荷は順調で、各サプライヤーの繰り越し在庫は殆ど無く、新穀の開始とともに旺盛な買い付けが始まると見られており、現行の高値相場をベースに新穀に突入することが予想されます。また昨年同様、サウジアラビア勢が早くも産地で買い付けに動いているとの情報もあり、19年産の高値スタートは避けられない状況と言えます。

米国内の酪農家についても、低調な乳価によりその購買力は強いとは言えませんが、相場に関係なく手前の必要量を安定的に調達する必要があり、結果として産地相場に影響を及ぼしている構図となっています。

18年産のカリフォルニア州のアルファルファ生産量は前年に比べ10%減少しており、供給力の落ち込みと需要の増加が相まって堅調な相場を生み出しています。今後もカリフォルニア州中部を中心に、相場が好調なアーモンド・ナッツ類への転作は続くと見られ、アルファルファの作付面積が大幅に回復する見込みは少ないと考えられています。

米国産チモシー

18年産の産地在庫はグレードを問わずほぼ成約済となっており、今後は新穀まで買付けした玉を繋いでいくこととなります。アルファルファ同様、2月の降雪の影響により、各サプライヤーに出荷の遅れが発生しており、大型連休を前にした日本国内のデリバリーに不安が残る状況となっています。

新穀の作付面積は、昨年から産地相場が他作物に比べて相対的に高値で推移したことから若干増加するものと見込まれています。

産地相場については、日本および韓国からの引き合いは引き続き堅調であることから、相場は弱含む要素に乏しく、新穀までは現状のまま高値で推移するものと予想されます。

カナダ産チモシー

産地在庫はすべて成約済の状況となっており、今後は新穀まで契約済の在庫を積み出していくこととなります。産地相場については日本および韓国からの需要が安定していることから、大きな変動なく堅調に推移しています。

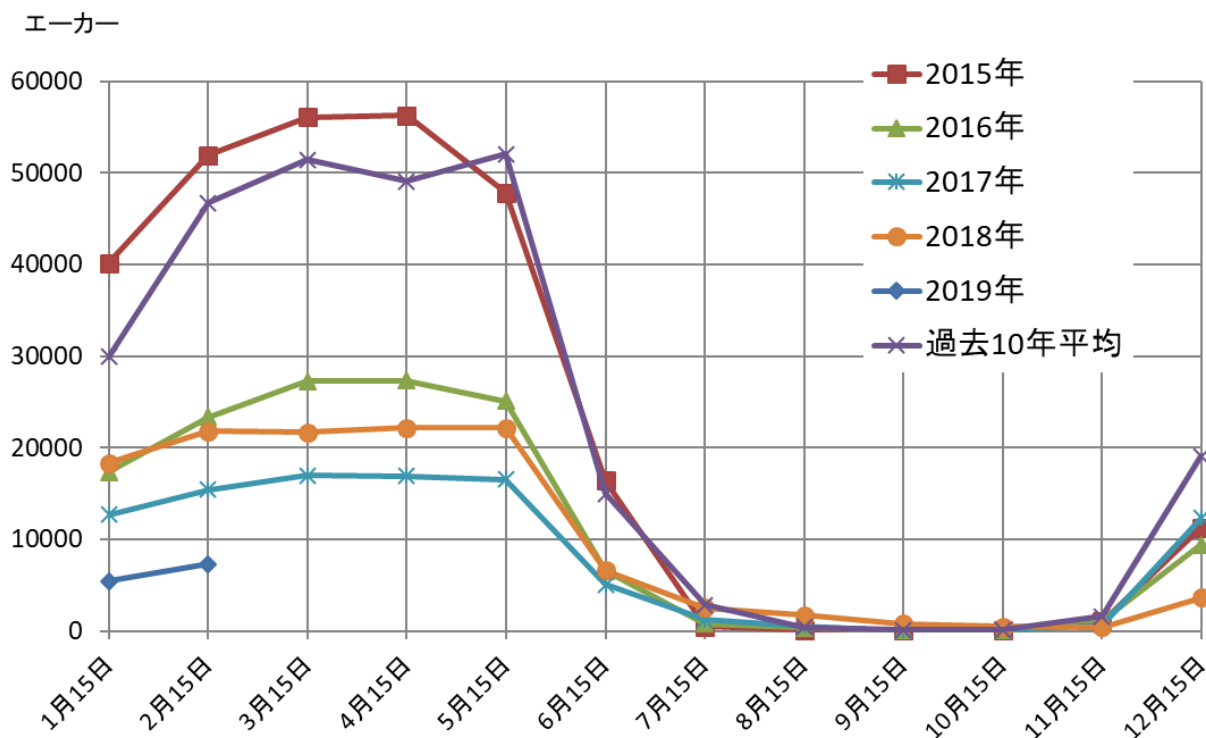
19年産の作付面積は他作物の相場が低調なことから、横ばいもしくは微増と予想されています。

スーダングラス

18年産の産地在庫は茎細の上級品についてはすべて成約済、中～低級品で若干の在庫が残っている状況です。日本からの需要は安定して推移しており、新穀の出荷が開始されるまで、産地側での需給に関する大きな動きはなさそうです。

いわゆる早播きスーダンの作付量に影響を及ぼすデュラム小麦の作付面積は、2月15日時点で前年同月比34%（約7,300エーカー）と産地相場の低迷を受け、大きく減少しています。このため、早播きスーダンの作付面積は増加することが期待されます。一方で、アルファルファや他の牧草類の産地価格が上昇する展開が予想され

る中、新穀のスーダン相場が連れ高になることは十分に想定できるため、注視していく必要があります。



	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日	5月15日	6月15日	7月15日	8月15日	9月15日	10月15日	11月15日	12月15日
2015年	40158	51951	56068	56252	47848	16399	529	132	86	53	1075	11284
2016年	17328	23379	27258	27308	25107	6565	802	373	45	45	1155	9407
2017年	12733	15443	16988	16913	16532	5102	1218	554	59	202	712	12323
2018年	18311	21818	21673	22181	22172	6639	2565	1714	799	478	461	3683
2019年	5477	7323										
過去10年平均	29940	46693	51406	49055	52042	14966	2868	424	122	127	1617	19083

インペリアルバレー 小麦作付面積推移（単位：エーカー）

現在、産地の気温は例年よりも低温で推移しており、早播きスーダンの作付は例年より2～3週間程遅れています。今後の天候・気候次第ではありますが、新穀の収穫開始もやや遅れることが予想されています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

2月15日時点の作付面積は前年同月比122%となっています。既報の通り、好調な産地相場を背景に、作付面積は伸長しており、19年産においては生産量の増加が期待されます。しかしながら、産地の余剰在庫がほぼ枯渇している状況のため、新穀の開始とともに買い付けと需要が集中し、産地相場を刺激することが懸念されます。現時点においても、生産量の増加を差し引いても新穀相場は引き続き堅調、もしくはさらなる上昇の可能性も高いと予想されています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、年明け以降、多くの生産農家が抱えていた在庫の放出に転じました。このため、新穀の供給が始まって以降上昇を続けていた産地相場も落ち着いてきており、産地における供給力の懸念も薄まっています。日本および韓国からのストロー類への需要は堅調に推移しており、産地相場は現状のまま堅調に推移すると見られています。

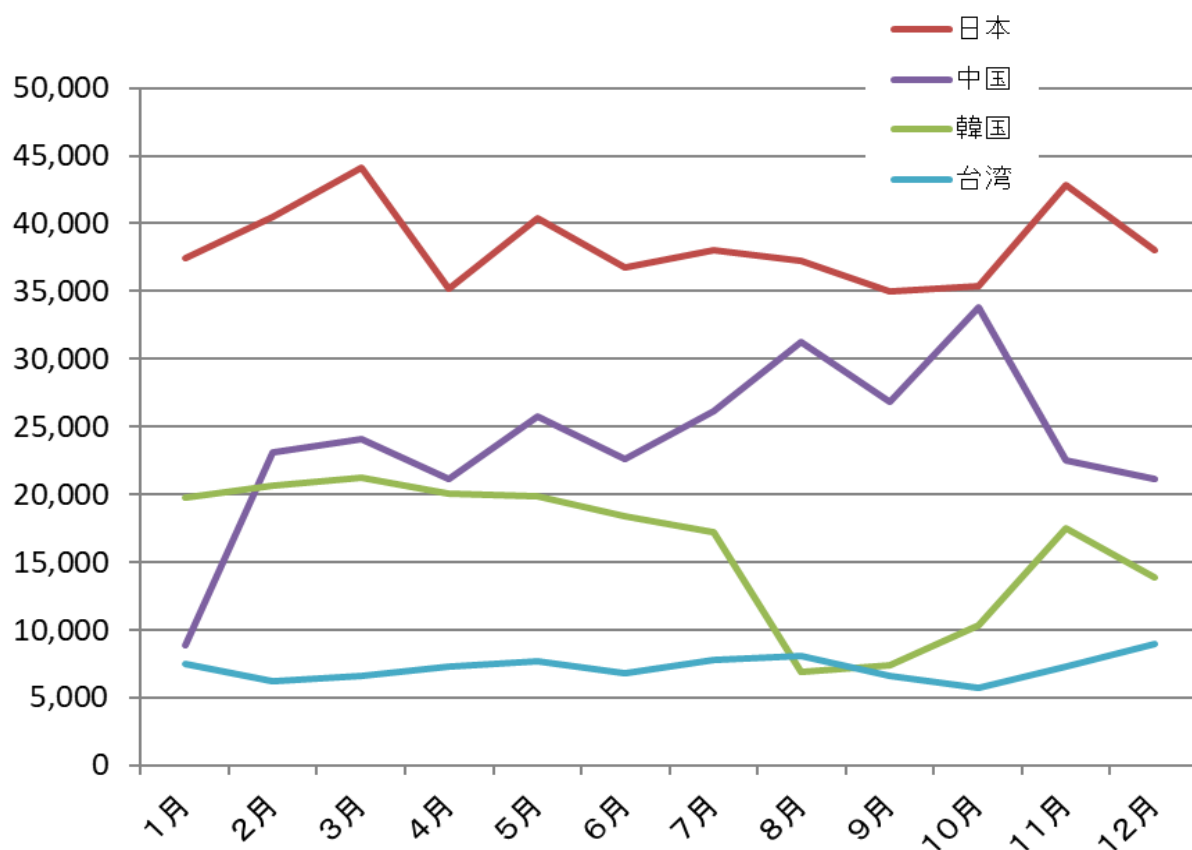
19年産の作付面積はライグラスストローで微減、フェスクストローは大きな変動はないものと予想されています。

豪州産オーツハイ

各産地における在庫は、総じて上級品についてはすべて成約済、中～低級品についてもサプライヤー側で追加可能な在庫は現時点では限定的で、一部の生産農家がさらなる価格上昇を期待して在庫を抱えている状況です。

日本、韓国、中国および台湾からの需要は堅調に推移しており、在庫を確保できたサプライヤーの工場ではフル生産が続いています。各国からの需要が堅調なことと豪州側の供給余力が例年よりも乏しいことから、産地相場は高騰したまま堅調に推移しています。今後は豪州国内の酪農家、肥育牛農家が冬期給与用の乾牧草の確保に動くことが予想され、産地相場の動向を注視していく必要があります。

日本国内では、残念ながら大幅に上昇した価格が浸透した後の需要の動向に注意が必要と言えます。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Total	76,593	93,277	98,423	86,366	95,803	86,629	91,620	87,935	83,592	88,379	94,076	85,064	1,067,755
日本	37,456	40,495	44,162	35,160	40,355	36,780	38,002	37,246	35,030	35,379	42,848	38,046	460,959
韓国	19,820	20,683	21,255	20,064	19,840	18,375	17,249	6,913	7,436	10,343	17,567	13,916	193,461
中国	8,913	23,125	24,094	21,160	25,734	22,642	26,140	31,276	26,888	33,858	22,516	21,110	287,454
台湾	7,498	6,250	6,590	7,319	7,746	6,851	7,785	8,135	6,595	5,759	7,307	8,981	86,815
その他	2,906	2,724	2,322	2,663	2,128	1,981	2,444	4,365	7,643	3,039	3,838	3,011	39,065
計	76,593	93,277	98,423	86,366	95,803	86,629	91,620	87,935	83,592	88,379	94,076	85,064	1,067,755

豪州産 オーツハイ類 2018年 月別輸出先別数量 (単位：トン)

以上